別紙様式

令和　6　年度　学校評価シート

学校名：和歌山県立南紀高等学校通信制課程　　校長名：松下　重喜

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・生徒が誇りを持ち、地域に信頼され愛される学校
・自主的に課題や問題に取り組み、学習の進捗を自分で管理できる生徒
・将来の目標を持ち、その実現に必要な学習に取り組む生徒

学校評価の公表方法

学校運営協議会において説明し、指導助言をいただくとともに、教育振興会においても評価結果を報告し、ホームページに公表する

現状・進捗度		
	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。　（60%以上）
	C	あまり十分でない。　（40%以上）
	D	不十分である。　（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（１０月２６日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	人間力の育成	B	・個人の到達度に合わせて、きめ細かな面接指導を実施。家庭的な事情から学習に集中できない状況や、発達の課題を抱えた生徒は多いが、多様な生徒事情に対応したスクーリングを実施	・生徒一人一人の出席状況とレポートの提出回数	B	田辺学級では日曜スクーリング、平日スクーリング、夜間スクーリングを実施した。新宮学級では日曜スクーリング、平日スクーリングを実施したが、夜間スクーリングの実施はない。参加人数については、田辺学級で約50名、新宮学級で約 30 名が出校している。	・新宮学級でも平日スクーリングを多くすることができないか。 ・今年度は進学に特化した生徒も多く、高校卒業という目標だけでなく進学への意識も高かった。一人一人丁寧に対応することが必要となり、非常に時間がかかった。 ・進路ガイダンスの回数を増やす。 ・進学についての対応マニュアル等ももっと細分化しておくほうがよい。 ・行事などがタイトなスケジュールにならないようにする。
			生徒の学習を支援する校内託児室の活用・充実に取り組む	・生徒の状況に応じて適切な支援を行っているか		本年度、利用者なし。	
			生徒たちがより身近に職業のことを考えることができるように、職業体験学習や進路講演会を積極的に実施し、進路だよりをこまめに発行する	・職業観を育成するキャリア教育を行っているか	B	応募前企業ガイダンス1回開催。 進路ガイダンスは就職・進学別に開催した。進路だよりは10号発行された。特に進学関連では一定の成果が現れた。	
2	学力の向上	B	他の定時制通信制高校と情報を共有し、取組事例等の交流を図る	通信制のシステムや教育課程について、改善点を検討	B	各教科レポートをより理解しやすくするために工夫した。	定期的な他の通信制高校との情報交換をはじめ、他府県の取り組みを取り入れていけるようにより交流を深める。
			ICTを活用した教育システムの充実を図る	情報の収集、保護者や地域に向けた広報活動の実施	B	Teamsの利用で情報発信が容易になった。	
			課題について理解を得るため、保護者や地域との連携を深める	新宮学級との遠隔指導での効果的な学習指導の実施	B	新宮学級では学校説明会の回数を増やし、個人面談等も回数を増やした。	
3	自律性・社会性の育成	B	生徒理解を深めるため、面談等によりコミュニケーションを積極的に図る	・スクーリングを活用し、定期的で実際的な面談の実施	B	職員は一人一人の場合にわけて、個人での対応を心がけている。	・特性を持つ生徒が多く、のコミュニケーション能力を高める研修会や勉強会をもつ。（SST なども効果的） ・生徒が時間や場所を考えずにアクセスするので、Teamsを通して規範意識をつけたい。
			スクーリングや社会性や規範意識を高める	生徒に行事への参加を促し、規範意識の活動となっているか	B	通信ではともすれば個人の学習になりがちだが、特別活動等で他者との協働を学ぶ機会を増やしてきた。	
			通信制のシステムを生徒自身が最大限活用できるよう、丁寧な情報提供に努める	・「南紀通信」等、積極的な情報発信を行っているか ・Teams の積極的、効果的な活用ができているか	B	南紀通信・Teamsで、情報をわかりやすく素早く提供できた。	

学校関係者評価（２月１２日実施）

〇Teamsの利用により、学習指導だけでなく、担任と生徒との人間関係も円滑に行えた。

〇ヤングケアラーの生徒もいる学校と行政が連携して協力していかなければならない。

〇多様の生徒が在籍しているため指導も難しい一面があり、教師に求められる役割も多様化している。

〇対人関係が、苦手な生徒も多く、多人数で学ぶことも大切ではないか。スクーリングを通じて、多人数で学ぶような体験はできないか。その中で、自分と違う意見を聞いたり、自分の考えを発表したりすることで、社会性を身につけられる。

〇春季・秋季体験学習の他にも、校外学習を多く取り入れ、色々な体験をすることが大切である。たとえば、串本ジオパークの見学や、さまざまな自然体験をする機会を作れないか。

〇生徒の多くは不登校の経験者であり、現在もほとんど外出しない生徒もいる。そのような生徒に対し、自信や自己肯定感を持たせることが大切である。これから、社会に出て行くうえで、南紀高校通信制課程の果たす役割は大きい。また、引きこもりの生徒に対して、引きこもる前に手立てはないか。

〇南紀高校を地域に必要な学校、子供にとって必要な学校にしたい。

〇今年度は28名が卒業予定である。前籍校から転入した生徒や、病気を抱える生徒、ネグレクト、ヤングケアラーなど生徒の抱える問題は深刻だが、頑張り屋の生徒が多く、自分の目標に向かって歩んでいる。

〇在籍生徒は340名だが、学習活動をしている生徒は220名である。そのため卒業できず残っていく４年次生が多くなる。より多くの生徒を卒業させるために努力していかなければならない。